



SUCCESS STORY 株式会社ダイサン

SONORA 多種多様な印刷機に対応

**完全無処理 CTP プレート SONORA を 2 台の KODAK CTP で
月最大 7,000 版出力し、B2 オフ輪から菊全 8 色機 (油性)、
菊全 / 菊半 4 色機 (H-UV)、軽オフまで合計 8 台の印刷機に供給。**

社内一貫生産でお客様ファーストを徹底

栃木県さくら市に本社 / 工場を構える株式会社ダイサンは、1974 年創業の総合印刷会社である。創業者の教え「お客様の都合を考えて印刷物をつくる」を企業理念に、企画制作から製版、印刷、後加工まで一貫した社内生産体制を構築し、高品質で迅速な印刷サービスを提供する。印刷部門にはコモリ製の B 縦半裁判のオフセット輪転機 2 台から菊全判 8 色両面機、菊全判 / 菊半裁判 4 色機 (H-UV)、リヨービ製の軽オフ (菊四裁判 4 色機 / 単色機 2 台) まで合計 8 台の多種多様な印刷機を擁し、栃木県内はもちろん、北は青森、南は高知まで幅広い顧客ニーズに応えている。従業員はグループ会社も含め約 150 名。売上の 9 割は印刷事業だが、「人に伝える印刷という仕事」の延長線上として、サイン&ディスプレイや HP 作成、さらにはマンガ動画制作など新規事業にも力を注いでいる。

「新しい SONORA はもちろん、長年使ってきたコダックの刷版で印刷トラブルが起こったことはありません」

SONORA 導入に向け オフ輪での印刷テストを一発クリア

同社はつねに最先端のテクノロジーを導入することで顧客の要望に応え続けてきた。1990 年代にはいち早くプリプレス工程のデジタル化を進め、DTP 化、CTP 化も北関東屈指の早さで実現している。当時からコダック (旧 SCITEX、CREO) に絶大な信頼を寄せ、画像処理システムも、イメージセッターも、CTP も、刷版も一環してコダック製品を使い続けてきた。代表取締役社長の齋藤慎一氏は「当社のプリプレス工



代表取締役社長 齋藤 慎一 氏



製造部部长 兼 工場長 伊藤 也寸志 氏



オフ輪部 課長 笹沼 道憲 氏





最新の H-UV 印刷機を 2 台導入



24 時間生産体制のオフ輪部門



約 30 名が働く本社制作部門

程の革新はコダックの歴史と共にある」と長年にわたる信頼関係を強調する。そして「コダック応援団の 1 社として新製品のフィールドテストなどにも積極的に協力してきた」と続けている。実際、KODAK SONORA プロセスフリープレートについても、発売開始後すぐの 2015 年秋には印刷テストを実施し導入の機会を伺っていた。製造部部长 兼 工場長の伊藤也寸志氏は、導入までの経緯について次のように説明してくれた。

「現像廃液の廃棄コストや、現像機のメンテナンスの手間の問題から刷版を無処理化したいと考えていました。SONORA を導入している同業者から『慣れるまで少し時間がかかるかも』と聞いていたのですが、オフ輪での最初の印刷テストから何の問題もなく一発クリアできたので驚きました」

オフ輪部 課長の笹沼道憲氏も「印刷機の設定を何ら変えることなくスムーズに刷れた」「以前まで使っていた有処理版と何ら変わらなかった」と当時を振り返る。その後、枚葉印刷機（油性 / H-UV）のテストを実施し全印刷機での印刷適性を見極めていった。「現像液の購入代や処分費用がゼロになる」「面倒なメンテナンスの手間がなくなる」「環境にもやさしい」などメリットは大きく、本格導入に向けた準備が進んでいった。

CTP の増設にあわせて SONORA を全面採用

当時、同社は KODAK MAGNUS Q800 プレートセッター 1 台で刷版を出力していたが、版数が多く、印刷部門の版待ちが課題になっていた。このため、2016 年 6 月、新たに KODAK TRENDSETTER Q800 プレートセッターを増設することでボトルネックの解消を目

指した。同時に刷版も KODAK TRILLIAN SP から SONORA へと変更し、完全無処理化を図った。「現像工程がなくなり出力が早くなった」「版待ちがなく印刷機が止まることもなくなった」とボトルネックの解消に SONORA も一役買っていると伊藤工場長はいう。SONORA の本格導入からすでに 3 年以上が経過するが、笹沼課長も「大きなトラブルは一切ない」と断言する。齋藤社長も「新しい SONORA はもちろん、長年使ってきたコダックの刷版で印刷トラブルが起こったことはない」と続けてくれた。現在、月産出力版数は 4,500 ~ 7,000 版で、オフセット輪転機から油性印刷機、H-UV 印刷機、軽オフまですべての印刷機で SONORA が使われている。耐刷性はオフ輪で 35 万刷以上、枚葉機で 6 万枚以上と従来の TRILLIAN SP と何ら遜色はないようだ。

視認性、耐傷性は全く問題なく 年間 13% 以上のコストダウンも実現

これまで SONORA は継続的な製品改良を続けることで、耐刷性、視認性、耐傷性を大きく改善してきた。ただ未だに視認性やキズ付きを心配する印刷会社も少なくない。その当たりの事情について笹沼課長に聞くと「視認性については当社も最初は戸惑ったが、慣れれば全く問題ない」と一笑に付した。耐傷性について「社員のモチベーションが向上した」と語るのは伊藤工場長だ。

「刷版を乱暴に扱えばキズが付くのは当たり前です。当社では一枚一枚合紙をはさみ版面が上になるよう積んで印刷現場に運んでいます。このようにキズ付き防止を徹底することで、印刷トラブルを防いでいます」

お客様の満足を最優先に考えて高品質を提供するダイサンの企業姿勢が、社員一人ひとりにまで浸透していれば、刷版を丁寧に扱うことは当たり前なのだろう。さらに伊藤工場長はコスト削減効果について次のように話している。

「現像工程がなくなり現像液の購入代や処分費用、メンテナンス費用などがゼロになったことで、年間 13% 以上のコストダウンが実現できました。これまでプラスチック容器の処分先に困っていたのですが、その心配もなくなりました。製版部門の人員は 3 名から 2 名になり、生産効率も著しく向上しました」

同社は今、印刷品質のさらなる向上に取り組んでいる。すでにオフ輪 300 線、平台 350 線の高精細印刷にも成功している。顧客の評判も良く、「500 線が目標」と齋藤社長は意気込んでいる。こうした挑戦ができるのも、実は SONORA によるもの。現像による変動がないので、網点が正確に綺麗に印刷再現されるのである。新しい印刷の可能性で顧客満足を追求するダイサンを、これからもコダックの技術が支えてゆくのだろう。

株式会社ダイサン
 代表取締役社長：齋藤 慎一
 本社：〒329-1334 栃木県さくら市押上 755-1
 TEL.028-682-1311 (代)
<https://www.daisan-print.co.jp>



コダック ジャパン

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)
 大阪:050-3819-1266 名古屋:050-3819-1265 福岡:050-3819-1270
 仙台:050-3819-1255 札幌:050-3819-1250

2019-07